

「ほめる」使用頻度と「ほめられる」好感度 (Ⅳ)

～50-60代の同性・異性間の差異及び他の世代との比較～

林 宇萍・林 伸一

1、はじめに

他者をほめる言語表現と他者からほめられてうれしいと感じる言語表現の中には、ほめる側とほめられる側の価値観が反映されている。個々人によって、それぞれ価値観は異なるが、同世代に共通した価値観と世代を異にすることによる価値観の相違がある。また世代が異なっても価値観として共通する部分もある。

林 (2002) は、「ほめる・ほめられる」の言語表現を内面ホメ、外見ホメ、雰囲気ホメなどと分類し、その特徴を明らかにしようと試みている。また、二宮 (2003) は、構成的グループ・エンカウンターのエクササイズとして「ほめる・ほめられる」を留学生と日本人学生の混合クラスで実施した例を開示し、分析している。

林・二宮 (2003) は、10-20代の女子学生50名を対象にアンケート調査 (25項目) を実施した。同調査では同世代の他者をほめる言葉の使用頻度 (ホメ頻度) とほめられてうれしいと感じる度合 (ホメラレ好感度) を同性の場合と異性の場合で比較検討している。価値観を数値化して表すことは困難であるが、ほめる言葉の使用頻度 (ホメ頻度) とほめられてうれしいと感じる度合 (ホメラレ好感度) を数値化することによって価値観を数量的に比較する可能性が示された。

林・林 (2005) は、10-20代の男女各100名を対象にアンケート調査を実施して、男女間の価値観の相違を比較検討している。さらに林 (2007) は、30-40代の男女各100名を対象にアンケート調査を実施して、男女間の価値観の相違を比較検討し、10-20代との世代間の相違を比較検討している。

また、林・林・梶村 (2007) は、中国の大学生、男女各100名を対象にアンケート調査を実施して、男女間の価値観の相違を検討し、日本人の10-20代との相違を比較検討し、中国と日本の若者の価値観比較を行っている。

梶村・林 (2006) は、小中学生向けのアンケート調査 (20項目) を実施し、ほめる・ほめられる言語項目から見た小学生と中学生の価値観比較を行っている。さらに、梶村・林 (2006) は、小中学生向けのアンケート20項目を用いて、日本人学校の中学生と日本国内の中学生の価値観比較を行っている。

本報告は、10-20代 (若年層)、さらに30-40代 (壮年層) の男女に行ってきたアンケート調査の延長上に、50-60代以上の日本人男女各100名ずつを対象に実施した調査結果を開示し、比較検討するものである。

2、調査の目的

- 1) 50-60代以上でほめる言語表現の使用傾向として、どのような表現が多く用いられるか。
- 2) 50-60代以上で相手が同性か異性かによって、ほめる言語表現使用の頻度（ホメ頻度）にどのような差異があるか。
- 3) 50-60代以上でほめられる言語表現として、うれしいと感じる度合い（ホメラレ好感度：好感度）がどの程度であるか。またその好感度の男女の差異はどうか。
- 4) 50-60代以上のホメ頻度と好感度を他世代と比較することにより、価値観の相違を明らかにする。

3、アンケート調査対象者の内訳

調査回答者：日本人の男性100名（50代20名、60代以上80名）

女性100名（50代51名、60代以上49名）合計200名

60代以上の回答者には、若干の70代、80代の人も含まれる

対象出身地：〔男性〕山口（72）福岡（10）熊本（4）広島（3）大阪（3）長崎（2）

および北海道、岡山、鳥根、愛媛、宮崎、鹿児島（各1）

〔女性〕山口（65）熊本（11）福岡（6）広島（5）長崎（3）佐賀（2）

大阪府（2）岡山（1）富山（1）大分（1）不明（3）

対象者職業：〔男性〕無職（68）教員（14）会社員（3）その他（15）

〔女性〕主婦（36）教員（32）無職（12）会社員（5）学生（1）

その他（14）

調査実施日：2006年4月－12月

質問紙内容：別添資料1参照

4、調査結果

男女各100名のアンケート調査の結果、ホメ頻度と好感度の集計を次の表1と表2に示す。表1と表2は各項目の得点を合計したものを点数の高い順に並べた。その合計得点は、各調査語の人気度を示しており、表1と表2はそれぞれ男女別の調査語の人気度ランキングを示している。第一位から第八位までを上位項目、第九位から第十六位までを中位項目、第十七位から第二十五位までを下位項目として、分析検討する。

4-1、男性50-60代以上のアンケート結果（100名）

次の表1の①から④は、それぞれ次の内容を表している。

①は男性が男性をほめるホメ頻度である。

②は男性が男性にほめられた場合のうれしさを示し、「男性好感度Ⅰ」とする。

③は男性が女性をほめるホメ頻度である。

④は男性が女性にほめられた場合のうれしさを示し、「男性好感度Ⅱ」とする。

表1：ほめる・ほめられる言語表現アンケートの結果（男性、50-60以上、n=100名）

順位	調査項目	①男→男 ホメ頻度	②男性 好感度Ⅰ	③男→女 ホメ頻度	④男性 好感度Ⅱ	合計得点	区分
1	元気	61	45	30	23	159	上位 項目
2	優しい	30	20	59	48	157	
3	頼りになる	34	45	12	41	132	
4	明るい	32	25	49	25	131	
5	思いやりがある	28	27	27	36	118	
6	センスがいい	25	25	40	22	112	
7	誠実	28	30	15	33	106	
8	努力家	25	48	5	14	92	
9	楽しい	20	16	27	27	90	中位 項目
10	話しやすい	23	26	17	22	88	
11	親切	24	21	23	17	85	
12	真面目	29	21	13	20	83	
13	しっかりしている	16	30	11	15	72	
14	包容力がある	18	19	11	23	71	
15	几帳面	18	32	9	8	67	
16	ほがらか	17	11	19	16	63	
17	笑顔が素敵	14	4	32	7	57	下位 項目
18	正直	12	14	9	11	46	
19	おだやか	12	11	11	11	45	
20	落ち着いた	10	13	6	13	42	
21	おしゃれ	4	4	14	6	28	
22	スタイルがいい	3	3	14	6	26	
23	素直	5	4	11	4	24	
24	かわいい	1	0	14	1	16	
25	目がきれい	1	1	7	3	12	

表1に示したように、50代・60代の男性において「ほめる・ほめられる」人気度が高かったのは、第一位「元気」、第二位「優しい」、第三位「頼りになる」、第四位「明るい」、第五位「思いやりがある」、第六位「センスがいい」、第七位「誠実」、第八位「努力家」の順であった。以上八項目を男性50-60代以上の人気度上位項目とする。

- ① 男性が男性をほめるホメ頻度において上位5項目は、「元気」「頼りになる」「明るい」「優しい」「真面目」であった。
- ② 男性好感度Ⅰの上位5項目は、「努力家」「頼りになる」「元気」「几帳面」「誠実」であった。
- ③ 男性が女性をほめるホメ頻度において上位5項目は、「優しい」「明るい」「センスがいい」「笑顔が素敵」「元気」であった。
- ④ 男性好感度Ⅱの上位5項目は、「優しい」「頼りになる」「思いやりがある」「誠実」「楽しい」であった。

4-2、女性50-60代以上のアンケート結果（100名）

次の表2の①は女性が女性をほめるホメ頻度である。②は女性が女性にほめられた場合のうれしさを示し、「女性好感度Ⅰ」とする。③は女性が男性をほめるホメ頻度である。④は女性が男性にほめられた場合のうれしさを示し、「女性好感度Ⅱ」とする。

表2：ほめる・ほられる言語表現のアンケートの結果（女性、50-60以上、n=100名）

順位	調査項目	①女→女 ホメ頻度	②女性 好感度Ⅰ	③女→男 ホメ頻度	④女性 好感度Ⅱ	合計得点	区分
1	優しい	49	46	39	55	189	上位 項目
2	元気	46	34	45	29	154	
3	頼りになる	36	36	57	20	149	
4	明るい	42	39	20	46	147	
5	思いやりがある	36	36	29	40	141	
6	親切	33	27	30	30	120	
7	話しやすい	28	32	22	31	113	
8	楽しい	23	26	36	27	112	
9	誠実	15	23	46	13	97	中位 項目
10	センスがいい	28	23	12	23	86	
11	笑顔が素敵	20	23	9	28	80	
12	包容力がある	12	13	33	4	62	
13	几帳面	26	12	12	11	61	
14	ほがらか	15	16	5	20	56	
15	しっかりしている	14	6	20	16	56	
16	真面目	10	14	20	11	55	
17	おだやか	10	14	15	13	52	下位 項目
18	落ち着いた	11	9	10	12	42	
19	おしゃれ	14	7	5	15	41	
20	努力家	12	11	10	4	37	
21	素直	8	12	2	13	35	
22	正直	5	8	2	7	22	
23	かわいい	6	1	0	11	18	
24	目がきれい	2	6	3	7	18	
25	スタイルがいい	2	3	4	4	13	

表2に示したように、50代・60代以上の女性において人気度が高かった項目では、第一位「優しい」、第二位「元気」、第三位「頼りになる」、第四位「明るい」、第五位「思いやりがある」、第六位「親切」、第七位「話しやすい」、第8位「楽しい」であった。男性の人気上位8項目と比較すると、上位5項目は共通しているが、第六位から第八位はそれぞれ異なっている。男性が「センスがいい」「誠実」「努力家」に価値観を置いているのに対し、女性が「親切」「話しやすい」「楽しい」に価値観を置いていると言えるだろう。

男性の上位項目の「センスがいい」「誠実」は、女性の中位項目に位置し、男性の上位項目「努力家」（第八位）は、女性の下位項目（第二十位）に位置している。

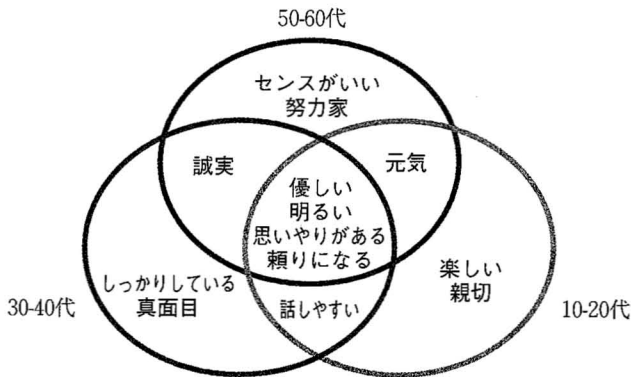
女性の上位項目の「親切」「話しやすい」「楽しい」は男性の中位項目に位置している。

- ① 女性が女性をほめるホメ頻度における上位5項目は、「優しい」「元気」「明るい」「頼りになる」「思いやりがある」であった。
- ② 女性好感度Ⅰの上位5項目は「優しい」「明るい」「思いやりがある」「頼りになる」「元気」であった。
- ③ 女性が男性をほめるホメ頻度における上位5項目は、「頼りになる」「誠実」「元気」「優しい」「楽しい」であった。
- ④ 女性好感度Ⅱの上位5項目は、「優しい」「明るい」「思いやりがある」「話しやすい」「親切」であった。

5、調査結果の世代間比較

本報告の50-60代以上のアンケート結果と、林・林（2005）の10-20代のアンケート結果及び林（2007）の30-40代のアンケート結果を比較検討し、次の図Aに男性上位項目の世代間比較、図Bに女性上位項目の世代間比較を示す。

5-1、男性上位項目の世代間比較



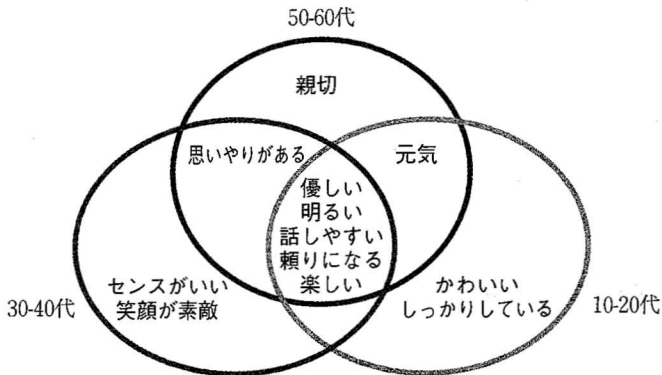
図A：男性各世代の上位項目の比較

図Aに示したように男性の人気度上位項目は、50-60代、30-40代及び10-20代に共通して「優しい」「明るい」「思いやりがある」「頼りになる」であった。50-60代以上と30-40代の人気度上位の共通項目は、「誠実」で、50-60代以上と10-20代の人気度上位の共通項目は「元気」であった。10-20代側の「楽しい」「親切」と30-40代側の「しっかりしている」「真面目」および50-60代以上の「センスがいい」「努力家」がそれぞれの世代の特徴を表すキーワードと言えるであろう。

梶村・林（2006）の小学生と中学生の上位項目にも「元気」が入っているが、本調査の50代・60代以上の上位項目「元気」は同じ言語表現であっても意味合いが違っているであろう。小中

学生の「元気」は、成長期に勢いのある「元気」であるが、高齢者の「元気」は病気にせず健康でいられることを意味する。「元気老人」という言葉があるように、高齢者は「寝たきり老人」や「老人性うつ病」にならないように健康状態を維持することに高い価値を置いていると思われる。

5-2、女性上位項目の世代間比較



図B：女性各世代の上位項目の比較

図Bに示したように女性の人気度上位項目は、50-60代以上、30-40代と10-20代ともに「優しい」「明るい」「話しやすい」「頼りになる」「楽しい」であった。50-60代以上と30-40代の人気度上位の共通項目は「思いやりがある」であり、50-60代以上と10-20代との人気度上位の共通項目は「元気」であった。10-20代女性の「かわいい」「しっかりしている」と30-40代の「センスがいい」「笑顔が素敵」、50-60代以上の「親切」が、それぞれの世代の特徴を表すキーワードと言えるであろう。

10-20代女性の人気度上位項目「かわいい」（4位）は、30-40代女性では17位、50-60代以上では23位と下位項目に位置している。「かわいい」という外見ホメは若年層には人気があるが、年齢が上がると内面ホメのほうが好まれ、同輩同士では「かわいい」が使われなくなる傾向を示している。「かわいいおばあちゃん」という言い方もあるが、「小さくて美しい」対象に「かわいい」を用いるという本来の語義が反映していると思われる。

10-20代の「かわいい」と30-40代の「センスがいい」は、人物評価として用いられているだけでなく、持ち物ホメとしても用いられるため、上位に位置していると考えられる。

また、50-60代以上の「思いやりがある」（5位）は、30-40代女性では7位と人気上位項目に入っているが、10-20代女性では12位（中位項目）である。年齢が上がることによって外見ホメの「かわいい」の価値観が下がり、内面ホメの「思いやりがある」に関する価値観が上昇していると言えるであろう。「思いやりがある」は「優しい」の類義語であり、前掲の図Aにも「優しい」と「思いやりがある」が3世代共通の上位項目であったことから、男女を問わず日本人

の価値観を探るキーワードの一つであると考えられる。

なお、人気の言語表現では、上の図AとBを見ると50-60代以上と10-20代の男女を問わず「元気」が共通項目である。また、図Bの10-20代女性に人気の「しっかりしている」が、図Aでは、30-40代男性の特徴項目となっており、図Bの30-40代女性に人気の「センスがいい」が図Aの50-60代男性の特徴となっている点が、ちょうど時計回りに追いかけているような形となっている点が興味深い。女性から男性に向けての方向性のあるほめ言葉であることが関係しているかもしれない。さらに、男女共に「優しい」「明るい」「頼りになる」「話しやすい」などが共通項目となっているが、それはちょうどコミュニケーションに必要な要素とも言える。

6、主な調査語についての世代間比較

50-60代以上のアンケート結果と、林・林（2005）の10-20代のアンケート結果及び林（2007）の30-40代のアンケート結果を比較検討するために、次の表3～表9、図3～図9を示す。

6-1、優しい（男性人気度）

次の表3に示すように、「優しい」は、10-20代が人気度で第一位にあるのに対して、30代以上では、第二位となっている。同じ第二位でも、30-40代では、合計ポイントが180であるのに対し、50-60代以上では157と23ポイントの差がある。世代によって「優しい」に対する価値観の重きの置き方の度合いが違い、10-20代が最もつよく、次に30-40代、50-60代以上が続いているのが特徴的である。

10-20代の「優しい」イメージは、「親切」（第7位）「思いやりがある」（第8位）との関係から、具体的な行為イメージとの関連が強く、30-40代では「思いやりがある」（第5位）「親切」（第13位）、50-60代以上でも、「思いやりがある」（第5位）「親切」（第11位）との関係から、内面的、雰囲気的なイメージが強くなると考えられる。同じ「優しい」でも若年層とそれ以上の世代とではニュアンスの違いがあると考えられる。

表3：項目「優しい」の男性世代間のデータ比較

	①男→男 ホメ頻度	②男性 好感度Ⅰ	③男→女 ホメ頻度	④男性 好感度Ⅱ	小計	人気度 順位
50-60代	30	20	59	48	157	2位
30-40代	43	34	61	42	180	2位
10-20代	55	61	75	73	264	1位

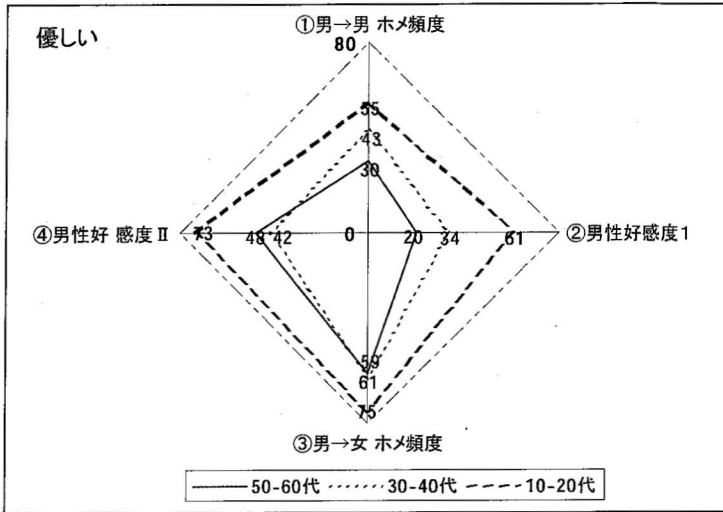


図3：項目「優しい」の男性世代間のデータ比較

6-2、頼りになる（男性人気度）

次の表4と図4に示す通り、「頼りになる」は、30-40代において価値観として重きを置いている度合いが、最も強く、50-60代以上がそれに続き、10-20代がグラフ上で、ほぼ内側に位置しているのが特徴的である。やはり、他の世代に比べて30-40代の働き盛りの世代が、ホメ頻度と好感度において「頼りになる」期待度と満足度が高いことがわかる。

ただ、男性から女性に対するホメ頻度の項目が、他の項目よりかなり低いことが特徴的である。世代を問わず、女性に対する男性の側からの「頼りになる」期待度が低いことを示しており、男女役割分業というジェンダー問題の要素を含み持っているように思われる。「一家の大黒柱」という表現は、男性イメージで発せられることが多く、会社の仕事上でも「頼りになる」男性社員が期待されているという背景があるように思われる。30-40代男性の女性から「頼りになる」と言われたい期待度が男性好感度Ⅱの高さに反映されているとも言えるであろう。

表4：項目「頼りになる」の男性世代間のデータ比較

	①男→男 ホメ頻度	②男性 好感度Ⅰ	③男→女 ホメ頻度	④男性 好感度Ⅱ	小計	人気度 順位
50-60代	34	45	12	41	132	3位
30-40代	53	55	13	65	186	1位
10-20代	25	33	7	35	100	6位

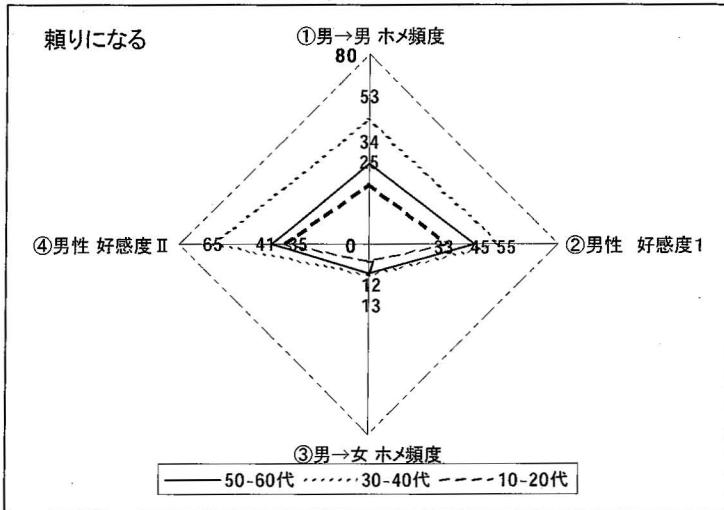


図4：項目「頼りになる」の男性世代間のデータ比較

6-3、元気（男性人気度）

次の表5に示すように「元気」は、50-60代以上の男性の人気度が第1位で、10-20代男性が第5位と上位項目にあるのに対し、30-40代が12位と中位項目に位置している。

また、図5に示すように、男性から女性に対するホメ頻度は、各世代であまり高くなく、男性が女性から「元気」と言われてうれしいと感じる好感度も他項目に比べて低いことが特徴である。「元気」が実質的な意味よりは、社交辞令あるいは挨拶表現として受け止められるためかもしれない。50-60代以上の男性の同性間でのホメ頻度と好感度は高いのに異性間でのホメ頻度と好感度が低い点が対照的である。30-40代がグラフの内側に位置しているのは、働き盛りの世代が元気であることは当たり前のこととして受け止められており、ことさら言葉にしてほめたり、ほめられたりすることに価値を置いていないとも考えられる。あるいは、仕事上の責任を持ち、働きすぎの傾向がある30-40代が他の世代に比べて、実際にあまり元気がないのかもしれない。また、10-20代の部下と50-60代の上司の板挟み状態にある中間管理職の30-40代の悩み多き世代の状況を反映しているのかもしれない。

表5：項目「元気」の男性世代間のデータ比較

	①男→男 ホメ頻度	②男性 好感度 I	③男→女 ホメ頻度	④男性 好感度 II	合 計	人気度 順 位
50-60代	61	45	30	23	159	1位
30-40代	27	20	10	19	76	12位
10-20代	29	27	30	23	109	5位

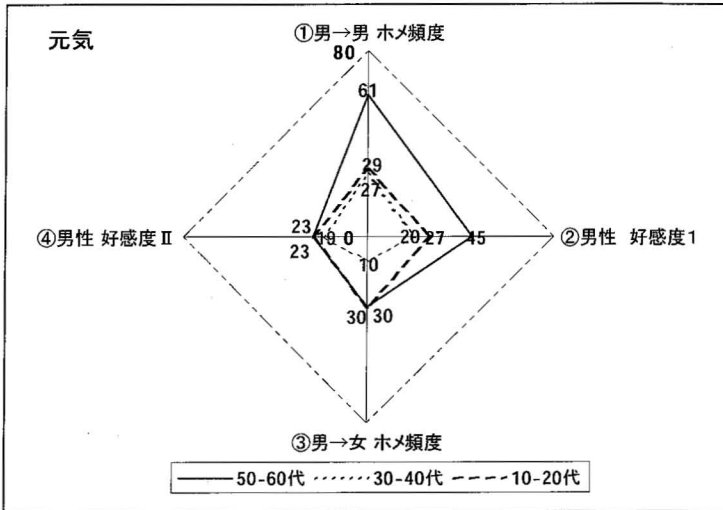


図5：項目「元気」の男性世代間のデータ比較

労働大臣官房政策調査部の「労働者健康状況調査」の結果を見ても、疲れを訴える年代は30代、40代にピークがあると読みとれる。また、連合総研（東京）の会社員に対する調査では、1日12時間以上労働していると答えたのは、男性が28%、女性は5%と、男性の「仕事人間」ぶりが際立っている。男性を年代別にみると、20代は29%、30代33%、40代30%、50代18%で働きマンとしての30代、40代が目立っている（SANKEI EXPRESS より）。

6-4、優しい（女性人気度）

次の表6に示すように「優しい」が世代を問わず人気の第一位にある。それは、女性にとって「優しい」が最大の価値観を持っていることを示している。

また、次の図6のグラフで見ると10-20代の「優しい」に価値観として重きを置いている度合いが最も強く、50-60代以上がそれに続き、30-40代がグラフ上で、ほぼ内側に位置しているのが特徴的である。

花崎（1981）は、「無にひとしいものでありながら、自分とおなじ運命のもとに他者もまたおかれていることを、身につまされて感ずることができたら、そこに生まれる感情は、『やさしさ』と名づけられるだろう」としている。つまり「やさしさ」は、共感能力を基盤に感じられるものだということだろう。

男性においても「やさしさ」は、第一位または第二位の位置にあるが、女性は世代を問わず第一位であり、それだけ共感性が豊かで、他者に共感することに価値を置いていると言えるのである。

表6：項目「優しい」の女性世代間のデータ比較

	①女→女 ホメ頻度	②女性 好感度Ⅰ	③女→男 ホメ頻度	④女性 好感度Ⅱ	小 計	人気度 順位
50-60代	49	46	39	55	189	1位
30-40代	37	35	48	48	168	1位
10-20代	72	56	81	60	269	1位

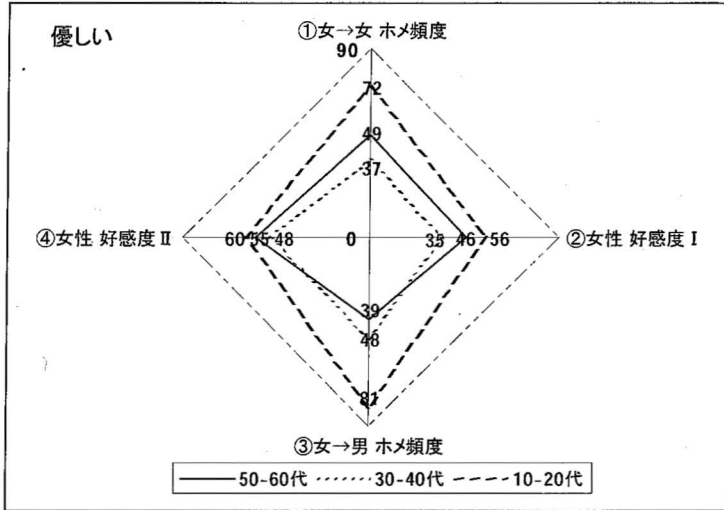


図6：項目「優しい」の女性世代間のデータ比較

「優しい」が人気の第一位にあるのは、近年の傾向とは限らず、1982年に東京都中野区の高校生を対象とした調査で、女子高校生が望む女性像と男子高校生から好ましいと思われる女性像で男女共に他の項目を抜いて「やさしい」が第一位であった。(男子が望む女性像72%、女子が好む女性像65%、福富1985より)

6-5、楽しい (女性人気度)

次の表7に示すように「楽しい」は世代を問わず上位項目に位置するが、10-20代は第二位、30-40代は第三位、50-60代以上は第八位と年齢が上がるに従って、人気度が下がる傾向にある。図7を見ても、10-20代はグラフの外側に位置し、30-40代は中間に位置し、50-60代以上は内側に位置している。

梶村・林 (2006) の中学生を対象とした調査でも、「楽しい」は男子で五位、女子で四位であった。10-20代は、男女ともに第二位で、30-40代は男性が第九位で、女性が第三位、50-60代以上は男性が第九位で、女性が第八位であった。どちらかというとも男性よりも女性のほうが「楽しい」という価値を強く希求していると言えるであろう。

金子 (2006) は、ものすごいパワーをもっている女性企業家の話として「仕事をしながら、子育てをして、主婦業をしている。これが『楽しい、楽しい、すごく楽しい!』とおっしゃるんですね。もちろん苦労もあるとおもいますが…」と紹介している。

女性企業家に限らず、女性の「楽しい」ということへの価値が重きをもっていることがよく表現されているように思われる。

表7：項目「楽しい」の女性世代間のデータ比較

	①女→女 ホメ頻度	②女性 好感度Ⅰ	③女→男 ホメ頻度	④女性 好感度Ⅱ	合 計	人気度 順 位
50-60代	23	26	36	27	112	8位
30-40代	30	35	45	39	149	3位
10-20代	44	51	58	44	197	2位

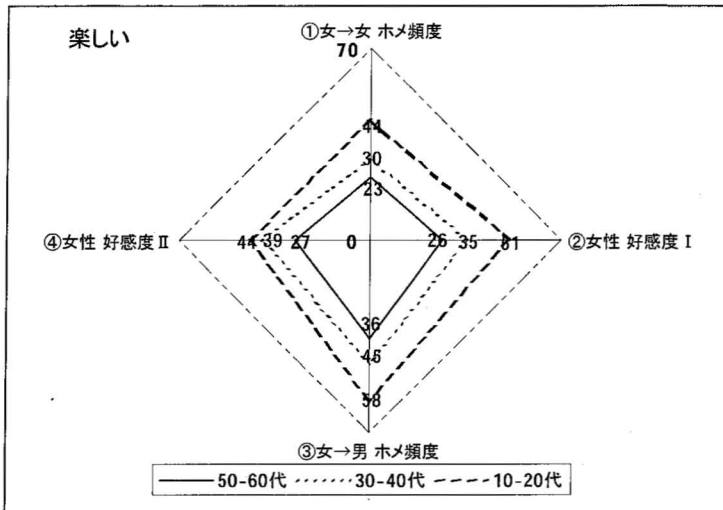


図7：項目「楽しい」の女性世代間のデータ比較

稲村・林 (2007) は、日本人学校の中学生と日本国内の中学生の価値観を比較した中で「日本国内では共通して興味あることに対して、何人かの友達と一緒に共有・共感できるために『楽しい』と感じる場面が多い」としている。10-20代は、男女ともに学校という友達と一緒に共有・共感できる場があるが、30-40代は職場や家庭という機能的で役割関係優先の人間関係の中で、学生時代よりも一緒に共有・共感できる場と人間関係が少なくなり、50-60代以上は、さらに地域社会の中で一緒に共有・共感できる場が限られてしまうために「楽しい」と感じる人間関係も少なくなってくると思われる。「独居老人」という言葉に象徴されるように、孤独な高齢者が増えて、「楽しい」人間関係が減っていく傾向にあると思われる。

河合 (1991=1997) は、「独居老人の数は増加の傾向があり、都会地ほどそれが強い」としているが、「日本では老人が孤独に耐える覚悟がまだあまりできていない」と述べている。

10-20代の「箸が転んでもおかしい年頃」には、日常のたわいもないことでもおかしく楽しく感じるものだが、30-40代は限られた「場」の中にあり、60以上で「社会とのつながりの喪失感みたいなものを感じている」(吉本、2001) 場合、心から楽しくはないであろう。

6-6、話しやすい (女性人気度)

次の表8に示すように「話しやすい」は、10-20代男性では第四位、女性では第三位とあまり差はないが、30-40代男性では、第七位なのに対して、女性は第二位と差がある。

表8：項目「話しやすい」の女性世代間のデータ比較

	①女→女 ホメ頻度	②女性 好感度 I	③女→男 ホメ頻度	④女性 好感度 II	小 計	人気度 順位
50-60代	28	32	22	31	113	7 位
30-40代	31	55	29	48	163	2 位
10-20代	37	46	50	54	187	3 位

次の図8でも、10-20代と30-40代では、あまり差がないが、50-60代以上はもっとも内側に位置しているのが特徴的である。

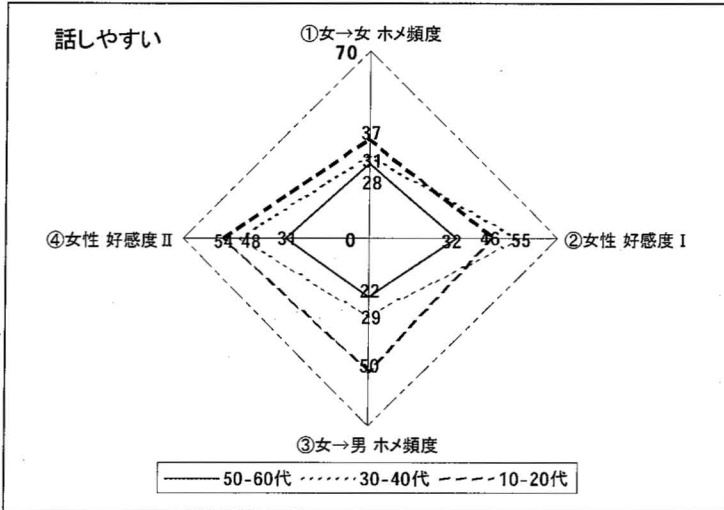


図8：項目「話しやすい」の女性世代間のデータ比較

50-60代以上でも男性の「話しやすい」は、第十位で中位項目にあり、女性の第七位と比べると男性より女性のほうが「話しやすい」に高い価値を置いていると言えるだろう。

福富(1985)は、「女の子を持つ母親のほうが男の子の子を持つ母親よりも子どもに接する時間が長く、男の子に対してよりも女の子に対して話しかける回数も多い」というアメリカでの調査報告を紹介している。そういった成育歴の違いから男性より女性のほうが「話しやすい」に高い価値を置く傾向があるとも推察される。

Pease, Allan & Pease, Barbara (1998=2000)も「話を聞かない男」「女はおしゃべりが恋人」「女がしゃべると、男はびびる」「女はストレスでしゃべる、男はストレスで黙る」などと、ステレオ・タイプのではあるが男女差について具体例を出して対比している。

6-7、元気(女性人気度)

次の表9に示すように、女性の「元気」は10-20代では第十一位で、30-40代では、第十二位と中位項目に位置するのに対して、50-60代以上では第二位と他の世代より高い価値を置いていることがわかる。図9を見ても、10-20代と30-40代が内側にあり、大きな差がないが、50-60代以上は外側に位置しているのが特徴的である。

表9：項目「元気」の女性世代間のデータ比較

	①女→女 ホメ頻度	②女性 好感度Ⅰ	③女→男 ホメ頻度	④女性 好感度Ⅱ	小 計	人気度 順 位
50-60代	46	34	45	29	154	2位
30-40代	33	20	15	15	83	12位
10-20代	27	23	25	15	90	8位

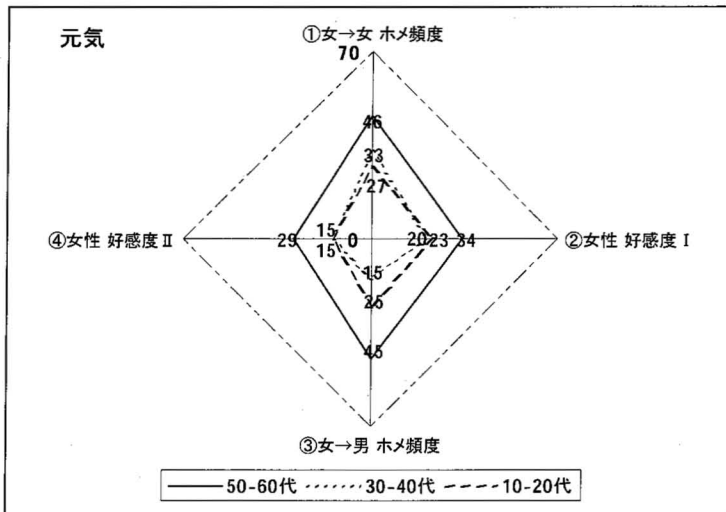


図9：項目「元気」の女性世代間のデータ比較

吉本(2001)も76歳男性の立場から「女の人を見ると明らかですが、みんなまだまだ元気だし、かなり長寿です」と述べている。男女を問わず「元気」が上位に位置するのは、年齢の割に「若い」との意が含まれて用いられているからであろう。

7、考察

10-20代の若年層の「誠実」は男性21位、女性23位と下位項目の中にあるが、30-40代の壮年層では、男性3位、女性10位と順位を上げ、50-60代以上の年齢層では、男性7位、女性9位となっている。特に男性の若年層と壮年層以上では、下位項目から上位項目へ、女性の若年層と壮年層以上では、下位項目から中位項目へ格上げされている。加齢とともに社会的責任が増し、周りからの期待に「誠実」に応えようとする人が尊重されるためであろう。同様に「几帳面」も加齢とともに下位項目から中位項目へと格上げされている。

「真面目」に関しては、10-20代で男性13位、女性17位が、30-40代では、男性8位、女性18位となり、50-60代以上では、男性12位、女性16位となっている。特に男性の若年層と老年層が中位項目であるのに対して壮年層は、上位項目となっているのが特徴的である。30-40代の男性が、働き盛りの年代で「真面目」に働くことを期待されているためであろう。「頼りになる」が、30-40代男性において価値観として重きを置いている度合いが、最も強いのと符合する結果である。女性の場合は、世代に関わりなく男性に比べて「真面目」に対する価値はさほど高くない。林・二宮(2004)は、女子大学生対象の調査で「真面目」21位、「几帳面」23位、「誠実」25位と下位項目の中にあつたことを報告している。

千石(1991)が若年層の「まじめの崩壊」を指摘しているが、「誠実」や「几帳面」などの価値比重が軽いのと符合している。

「優しい」「明るい」「頼りになる」は世代を問わず人気があり、日本人の価値観として広く受け止められていると言えるであろう。どういう訳か「正直」は、どの世代も下位項目の中であり不人気である。特に「優しい」は、10-20代の男女とも首位で、30-40代と50-60代以上では、男性2位、女性首位で、日本人の代表的な価値観となっている。竹内(1997)も「やさしさ」を「日本人にとっての代表的な思いやり倫理である」としている。

ただ「優しい」はプラス・イメージの語として手放しで肯定できるかという問題もある。それは、花崎(1981)が、「やさしさ」を「疎外された社会的個人のありようを、共感という方法でとらえるときに生ずる感情」と分析しているからである。要するに「優しい」に価値を置く日本社会は、どの世代も「疎外された社会的個人のありよう」を体験し、疎外感を感じているとも言えるだろう。

次に「明るい」が世代を問わず人気があり、日本人の価値観というだけでなく、より広く世界的に認められている価値観と考えられる。長崎県在住の83歳の男性が、日常生活の中で何が最も幸せなのかを考えて「家庭内の明るく温かい雰囲気であることに気づいた時、私にもまだまだできることがあるのだと思いました。何はさておき、私自身が明るい老人になることだと自覚した」と述べている。(2007年4月30日付 朝日新聞「声」より)

家庭内の明るく温かい人間関係が、幸福感につながっていくのだという思いであろう。

8、今後の課題

今後は海外の隣国（特に東アジアの中国、韓国など）においても調査し、より広い範囲で「ほめる・ほめられる」言語表現の差異を検討し、価値観の差異や文化差を明らかにしたい。そうすることにより異文化研究の基礎資料を提供することが可能になると思われる。

また、大人と子供、親子、教師と児童・生徒・学生など年齢差がある者同士の「ほめる」使用頻度と「ほめられる」好感度を調査することにより、年代間での評価の相違を分析し、他者評価のありかたを検討することができるとと思われる。そのような基礎データは、教育現場での活用が期待できるであろう。

【謝辞】 この紙面を借りて、アンケートにご協力頂いた方々に心から感謝を申し上げます。

【参考文献】

- 金子愛 (2006) 「十九歳で社長になった私」 安溪遊地編『続やまぐちは日本一～女たちの挑戦』 弦書房
- 河合隼雄 (1991) 『老いのみち』 読売新聞社 (=1997、『「老いる」とはどういうことか』 講談社)
- 梶村知美・林伸一 (2006) 「小学生と中学生の価値観比較～『ほめる』『ほめられる』アンケート調査より～」『山口大学文学会志』第56巻、山口大学文学会
- 梶村知美・林伸一 (2007) 「日本人学校の中学生と日本国内の中学生の価値観比較～『ほめる』『ほめられる』アンケート調査より～」『山口大学文学会志』第57巻、山口大学文学会
- 千石保 (1991) 『「まじめ」の崩壊』 サイマル出版会
- 竹内整一 (1997) 『日本人は「やさしさ」のかー日本精神史入門』 ちくま新書
- 二宮喜代子 (2003) 「構成的グループ・エンカウンター『ほめる・ほめられる』」 日本教育カウンセラー協会山口支部発行『ピアヘルピング講座実施報告書』
- 花崎皋平 (1981) 『生きる場の哲学』 岩波書店
- 林伸一 (2002) 『「ほめる・ほめられる」教育—ほめる対象、方向、範囲、内容、動機、効果などの分類試案—』『教育学研究紀要』第48巻第二部、中国四国教育学会
- 林伸一・二宮喜代子 (2004) 『「ほめる」使用頻度と『ほめられる』好感度～女子学生のアンケート調査にみる心理言語』『山口国文』第27号、88-96、山口大学人文学部国語国文学会
- 福富護 (1985) 『「らしさ」の心理学』 講談社
- 林宇萍・林伸一 (2005) 『「ほめる」使用頻度と『ほめられる』好感度(Ⅱ)～10代・20代の同性・異性間の差異～』『山口国文』第28号、42-54、山口大学人文学部国語国文学会
- 林宇萍 (2007) 『「ほめる」使用頻度と『ほめられる』好感度(Ⅲ)～30-40代の同性・異性間の差異及び10-20代との比較～』『山口国文』第30号、山口大学人文学部国語国文学会
- Pease, Allan & Pease, Barbara (1998) *Why Men Don't Listen and Women Can't Read Maps* (=2000、『話を聞かない男、地図が読めない女』 藤井留美訳、主婦の友社)
- 吉本隆明 (2001) 『幸福論』 青春出版

(リン・ウピン、はやし・しんいち)

〔別添資料1〕

日本語表現アンケート

- 1、あなたは、同性の同年輩の人を直接ほめるときに次のどの表現を使いますか。五つ選んで、その記号を○で囲んでください。いつもあなたが使う表現が次の語群にない場合には、その他の欄にあなたがよく使う表現を書き込んでください。

a、明るい b、元気 c、楽しい d、ほがらか e、優しい
 f、話しやすい g、おだやかな h、落ち着いている i、思いやりがある
 j、包容力がある k、親切 l、真面目(まじめ) m、誠実 n、正直
 o、正直 p、几帳面(きちょうめん) q、努力家 r、しっかりしている
 s、頼りになる(頼りがいがある) t、かわいい u、笑顔が素敵(いい)
 v、目がきれい w、スタイルがいい x、おしゃれ y、センスがいい
 z、その他_____

- 2、あなたが、同性の同年輩の人から直接ほめられたときにどのような表現がうれしいですか。うれしいと思う表現を五つ書いてください。上記の語群にある場合には、その記号を書いてください。上記の語群にない場合には、自由に書いてください。

イ、_____ ロ、_____ ハ、_____
 ニ、_____ ホ、_____

- 3、あなたが、異性の同年輩の人から直接ほめられたときに一番のどの表現を使いますか。五つ選んで、その記号を()の中に入れてください。いつもあなたが使う表現が1番の語群にない場合には、その他の欄にあなたがよく使う表現を書き込んでください。

() () () () () その他_____

- 4、あなたが、異性の同年輩の人から直接ほめられたときにどのような表現がうれしいですか。うれしいと思う表現を五つ書いてください。上記の語群にある場合には、その記号を書いてください。上記の語群にない場合には、自由に書いてください。

イ、_____ ロ、_____ ハ、_____
 ニ、_____ ホ、_____

- 5、最後に、あなたのプロフィールについてお知らせ下さい。

- a. 性別(男・女) 出身()都道府県/国
 b. 年齢(10代、20代、30代、40代、50代、60代以上)
 c. 職業(学生・主婦・会社員・教員・無職・その他)